

平成26年度 鳥栖市立麓小学校 学校評価結果

1 学校教育目標 鳥栖西中校区の教育目標 小中9年間を通して豊かな人間性と自立心を培い、生きる力をもった児童生徒を育成する 学校教育目標 思いやりの心と学ぶ意欲をもちたくましく生きる麓っ子の育成	2 本年度の重点目標 ◎子どもの「学び」を鍛える…学力向上 ・スキルタイムの内容・方法をより充実させ、児童の基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。 ・小中一貫教育の研究を生かし、児童の学習規律を身に付けさせる。 ◎子どもの「心」を鍛える ・鳥栖スタイル「三訓」「あいさつ」「時間」「清掃」を大切に指導を行う。 ○子どもの「体」を鍛える
--	---

達成度 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①子どもの「学び」を鍛える。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動		学習規律の定着ができたか	○「チャイム着席」を95%にする。 ・「はいの返事」を90%以上に ・「進んで発表する」を80%以上に ・「進んで発表する」を80%以上に ・「進んで発表する」を80%以上に	・麓っ子ががんばり表の内容を精選し、児童や教員の意識の共有を図り取り組む。 ・聴型・話型の掲示をし、常に意識させる。	B	・「チャイム着席」「はいの返事」はほぼ達成できるようになったが、「進んで発表する」は取り組んできたがまだ達成できていないと言えない。	・ふもとっ子ががんばり表の活用で意識させて取り組む。 ・上手にできた児童をほめていくことで、他の児童への意欲付けを図る。 ・聴型・話型の掲示を有効に使い、徹底させる。
教育活動	●学力向上	児童が基礎・基本の定着ができたか	・スキルタイムの充実を図る。 ・読書量1人平均年間75冊以上を目指す。 ・家庭学習の定着率を90%以上に ・家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の定着を図る。 ・本時の目標を意識して授業を行う。	・チャレンジタイムの内容を充実し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。 ・家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の定着を図る。	A	・毎週のスキルタイム「計算チャレンジ」の実施により、基本的・基礎的な知識・技能が上達するだけでなく、集中力も身に付けてきている。 ・家庭学習の手引きを学級懇話会で全保護者に説明して配布することができ、家庭学習も定着して、忘れの児童も少なくなっている。しかし、個人差もある。 ・本時の目標を毎授業で提示し、児童にも意識させながら学習を進めることができた。	・家庭学習を怠れた児童は、その日のうちにさせ、遅くときには保護者へも連絡を取り、定着を図る。 ・児童の実態に合わせて、内容や量を考慮して出すとともに、自主学習への取り組みも充実させるようにする。 ・スキルタイムの内容を充実させる。 ・読書量は年間ほぼ75冊程度まで達成できるようであるが個人差があり、全校・学級の取り組みを工夫する必要がある。
教育活動	●ICT利活用教育の推進	教職員のICT利活用能力は向上したか	・デジタルテレビやデジタルビデオカメラを活用した授業ができる教職員の割合を100%にする。	・全教職員が月1回以上、授業でデジタルビデオカメラを活用する。 ・校内研修会を学期に1回以上開催する。	A	・デジタル教科書やデジタルビデオカメラの活用により、児童の学習理解に大いに効果をもたらした。 ・校内研修会は学期ごとに3回開催し、教職員のICT利活用能力の向上につながった。	・ICT教材を確認し、計画的に有効に活用する。 ・より機器に慣れた児童をさらに進め、評価の機会を増やすようにする。 ・効果的な活用をさらに考えていく研修の必要がある。

②子どもの「心」を鍛える。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳の時間の充実ができたか。	・年間に1回以上、全ての学級で保護者や地域の方が参観することが可能なよう道徳の授業を行う。 ・「いじめ・命の日」の取り組みとして、人権週間に全学年生命尊重の授業を行う。	・「私たちの道徳」を活用できるよう、道徳、人権・同和の年間計画を作成を見直し、児童の実態に応じた指導をする。	B	・全ての学級で保護者や地域の方が参観することが可能な道徳の授業を行うことができた。 ・「私たちの道徳」を道徳の年間計画に入れ、指導ができた。 ・道徳と教科との関わりについての計画を各学年作成することができた。 ・人権週間では、全校児童に人権について考えさせることができた。	・道徳が教科化になることがわかっているため、道徳の時間の充実をさらに進め、評価についても研究を進める必要がある。 ・欠課にならないように補充することを確実にする。
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめと命を考える日の取り組みの充実ができたか。	・毎月10日に、心のアンケートを実施して、児童が安心して学校生活を送れるようにする。	・いじめ防止対策委員会を年2回開催する。 ・毎月10日「いじめと命を考える日」に児童対象のアンケートを実施し、児童の状況や気持ちを把握し、すぐに対応する。 ・得た情報にすぐに対応し、全クラスがアンケート用紙を職員室に保管して、児童の姿をつかむ。	B	・毎月10日のいじめと命を考える日に子ども向けのアンケートを実施した。実施日がずれることがあった。 ・全ての学級で、友達のおさややさしさを見つけ、紹介する機会をもつように実践しているが、まだ心ない言葉を使う児童がおり十分とはいえない。	・さらに全職員が共通理解をして、いじめの問題に取り組んでいく。 ・毎月10日「いじめと命を考える日」に児童対象のアンケートを実施し、児童の状況や気持ちを把握してきたが、いじめを未然に防ぐことができないケースもあった。 ・今後、情報をがあれば、関係職員を中心にすぐに対応を行っていく。

③子どもの「体」を鍛える。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動		よりよい生活習慣の定着ができたか。	・給食後の歯磨き実施率を100%にする。 ・目標就寝時刻を守る子どもを70%以上に ・毎月1日の「ノーテレビデー、ノーゲームデー」の取組率80%以上に ・スミルタイムの実施を毎月1回以上とする。	・麓っ子ががんばり表を活用し、継続的な指導を行う。 ・ノーテレビデー、ノーゲームデーの家庭での取組のアンケートを実施し、各家庭への啓発を強化する。	A	・給食後の歯磨きについては担任の指導や、チェック表の活用などによって概ね実施できていた。 ・就寝時刻については目標を達成できた。 ・ノーテレビデー・ノーゲームデーの実施率については目標を達成できた。	・引き続きがんばり表を活用し、継続的な指導を行う。 ・保健や生活の授業を計画的に行い、歯磨きや睡眠の重要性を指導する。 ・ノーテレビデー・ノーゲームデーについてのアンケートの回収率が下がっているため、新たな方法を考えるべきである。
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上ができたか。	・天気が良い日は95%以上の子どもが1日1回は休み時間、外で遊ぶようにする。 ・スマイルタイムの実施を毎月1回以上とする。	・学級で全員一緒に遊ぶ日を設定したり(週1回程度)1日1回外遊びの声をかけたりする。 ・スマイルタイムを通して、運動の楽しさを味わわせたり、遊びの幅を広げたりする。 ・各種お便りによる保護者・地域への啓発を行う。(学校だより、給食・食育だより、保健だより、学級通信など)	B	・学級で遊ぶ日を設定し実施することはできたが、毎日の声かけは効果を上げないことも多かった。 ・スマイルタイムを実施することで、様々な遊びに取り組むことができ、児童の遊びの幅が広がったが、月1回以上の実施はできなかった。 ・各種お便りによる啓発は徐々に効果を現しつつある。	・体育の授業で行った活動が、休み時間にも行えるよう、指導内容や実施方法を工夫する。 ・新体力テストの結果を児童に確認させ、体力向上のために外遊びが重要であることを認識させる。 ・学級全員で外遊びをする日を設定する。 ・月1回以上のスマイルタイムの実施を目指す。 ・引き続き各種お便りによる啓発を行う。

④教師力を磨く

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	ミドルリーダーの育成ができたか。	・お互いの資質向上のため、1年間に1回以上師範授業や校務分掌等に係る講話等に取り組む職員を100%にする。	・初任者対象の示範授業を計画的に行う。 ・研究授業を学期に1回以上実施し、授業研究会を行うことで授業力アップにつなげる。	A	・初任者対象の示範授業については、ほぼ全員が行うことができた。研究授業・授業研究会についてもグループ研・全校研とも丁寧に取り組むことができた。	・次年度、初任者研修があるかどうか、分からないが、経験の少ない教員が多くなる可能性があるので、校内研修だけでなく参観日等の機会をとり、授業を参観し合い、授業についての意見交換ができるようにしたい。 ・主任委員会を定期的に開催し、内容を充実させていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●小学校低学年の学習環境改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成ができたか。	・授業の始まりを守ることを達成率90%以上に ・元気あいさつや返事をするなどの達成率80%以上に ・家庭学習を毎日する。達成率90%以上に	・休み時間に次の授業の準備をさせる。 ・定期的に自己評価をさせる。 ・話を聞く時の約束を意識させる。 ・学習習慣を身に付けさせるために毎日の宿題を出す。 ・学級通信や懇話会を通じて、家庭との連携を図る。	B	・麓っ子ががんばり週間を設定し、麓っ子ががんばり表の取組を充実させた。また、小中一貫教育研究の取組で鳥栖西中校3校で授業の始めと終わりの挨拶の統一をした。授業の始まりがきちんと守れ、授業態度もよくなった。ただ、まだ全員とは言えない。	・麓っ子ががんばり表の中での取り組みを継続していく。元気のよい挨拶や返事については、個人差もあるが、音読や群読をさせたり、日々のやり取りの中でできている子を褒めたり紹介したりしながら、取り組みを充実させる。
教育活動	○小中一貫教育の推進	小中学校職員の相互理解ができたか。	・研究企画委員会・拡大協議会を月一回以上実施する。 ・3校合同研究会を年2回以上行う。	・4月当初に、年間計画を立て、会議や打ち合わせを入れておく。 ・拡大協議会での決定内容については副部長を中心にして各学級で実践していく。	B	・今年度、3校合同研究会を年3回(5月・8月・11月)行うことができた。また、小中一貫の研究企画委員会・拡大協議会を月1回程度実施することができた。さらに、内容の充実の必要がある。	・昨年度末の3月に、研究組織の改革を行ったこと、年度当初に年間計画を立て、会議を実施したことがよかった。また、専門部の部長であるコーディネーター(主幹教諭等)が研究をリードし、各学級の実践を進めたことが効果的だったので、今後、取り組みの内容については精選しながら継続させていきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○校内研で取り組んでいる算数については、昨年度末の学力テスト等の結果、まだまだ力が身についていない児童が多いことが分かって、今年度、基礎・基本定着をめざす研究に取り組んできた。授業づくりやスキルタイムの工夫で、少しずつではあるが、児童の力がついてきた。次年度、研究教科を国語に変更し、「日本語」を中心に学力をつけるようにしていきたい。
 ○小中一貫教育の研究については、3月末、研究組織を改善し、各学級での実践の充実のために、専門部の活用や広報活動の工夫を進めた。その結果、校舎が離れている3つの学校の職員の意識をつなぐきっかけができた。
 ○いじめ・命を考える日の取り組みについて、児童アンケートを実施すると共に、全校集会や放送朝会・各学級での取り組みを充実させて、より効果的な取り組みとする。心の教育については、まず、週1回の道徳の充実をさせる必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目